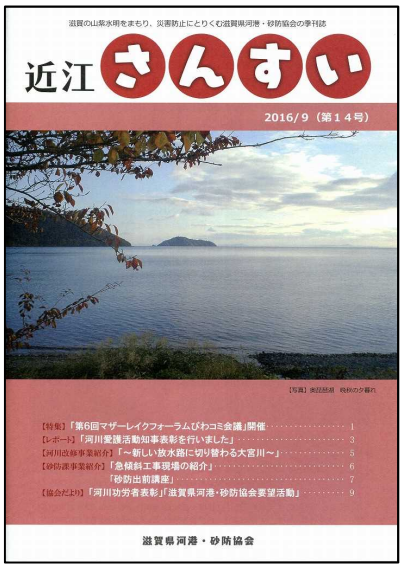
「近江さんすい」に寄稿を行っています！

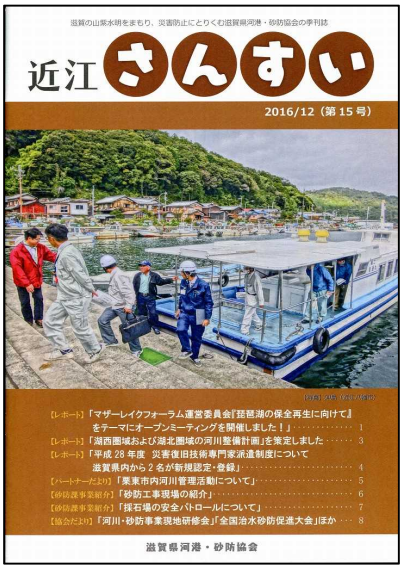
マザーレイクフォーラム運営委員会では、平成２７年の秋から、滋賀県河港・砂防協会が発行する季刊誌「近江さんすい」に、マザーレイクフォーラム関連の記事を寄稿させていただいています。ここでは、昨年９月以降に発刊された４号分についてご紹介いたします。これまでの「近江さんすい」は、県内の主要な公共施設に置いてありますので、探してみてください。

「近江さんすい」のバックナンバーの入手や定期購読などのお問合せは、「滋賀県河港・砂防協会」まで直接お願いします。

滋賀県河港・砂防協会 Web サイト：http://www.maroon.dti.ne.jp/shigakako/

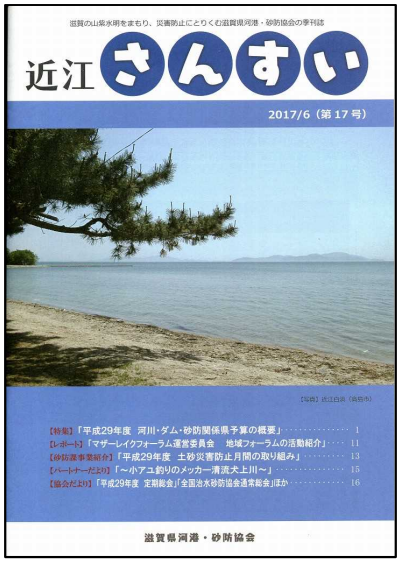


平成２８年９月号（１４号）



平成２８年１２月号（１５号）

平成２９年３月号（１６号）



平成２９年６月号（１７号）

マザーレイクフォーラム　「つながりに気づき、つながりを築く」

第 6 回びわコミ会議を開催しました！

マザーレイクフォーラム運営委員会

平成 28 年 8 月 20 日（土）、コラボしが 21（大津市）にて「第 6 回マザーレイクフォーラムびわコミ会議」を開催しました。今回はその概要についてご紹介します。

びわコミ会議の概要

琵琶湖流域の保全に関わる人たちが一同に会し、お互いの立場や経験、意見の違いを尊重しつつ、思いや課題を共有し、琵琶湖の将来のために話し合うのが「びわコミ会議」です。この会議は、2011 年に策定された「マザーレイク 21 計画(第 2 期)」の進行管理も担っています。

第 6 回を迎えた今回のテーマは「恵み　味わい　暮らし　つなぐ」。県内外から 212 名（76 団体）もの人が参加し、琵琶湖の食やそれをとりまく私たちの営みなどのテーマについて報告を聞き、また話し合いました。

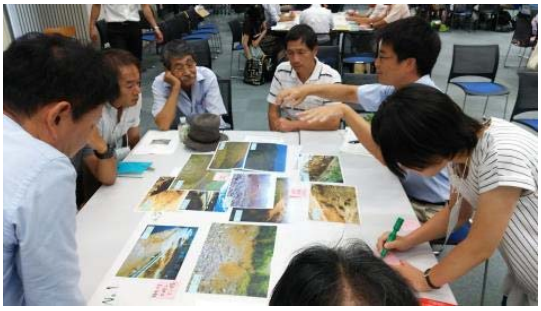
みんなつながる報告会（午前の部）

午前のプログラムでは、5 つの団体から琵琶湖の「恵み」や「食」、「暮らし」、また、森から川、琵琶湖までの「つながり」に関わる取組についてご報告いただきました。

「米原市ビワマス倶楽部」からは、米原市を流れる天野川にビワマスを戻す多様な取組についてご紹介いただきました。「TANAKAMI こども環境クラブ」からは、地域の子どもたちが田上山で見つけた生きものについて紹介してくれました。その他、「須原魚のゆりかご水田協議会」、「有限会社池田牧場」、「滋賀県琵琶湖環境科学研究センター」からも活動についてご報告いただきました。各団体からの報告の後、それぞれの報告内容に関連するデータ（ビワマスの漁獲量、漁獲量に占める水田放流魚の割合、シカによる食害の変遷など）を提示し、活動や事業（アウトプット）がどのように環境の変化（アウトカム）につながるのかについても認識を深めました。また、参加者に配布された「びわ湖と暮らし 2016」をもとに、琵琶湖のいまを様々な指標で振り返る「びわ湖なう」の発表も行いました。

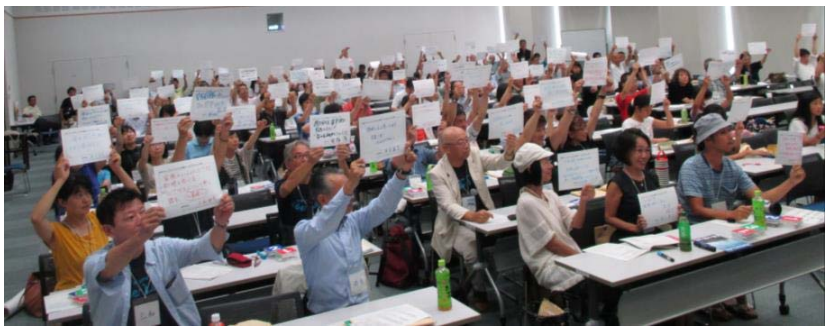
最後に、今年３月までに運営委員会へご寄付をいただいた「びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会」「びわカンゴルフコンペ」「Flower Produce ichika」の３団体の代表者をお招きして、松沢松治委員長に目録を贈呈いただく寄付金受領式を行いました。

びわ湖のこれから話さへん？（午後の部）



午後のプログラムでは、「びわ湖と活動連携」「びわ湖と外来種」「びわ湖と漁師」など 15 のテーマ別グループに分かれて、現在の課題や今後の取り組みなどについて話し合いました。真剣な話や笑い声、ときには歌（！？）まで聞こえ、どのテーブルも多様なメンバーによる対話を楽しんでいるようでした。

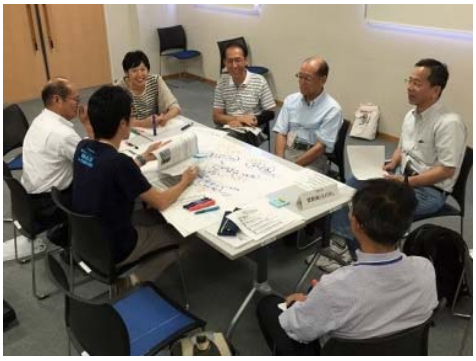
グループでの話し合いを終え、メイン会場に戻ってきたところで、これから１年間、自分が琵琶湖のために何をするかを宣言する「私のコミットメント（＝約束）」を発表しました。「琵琶湖畔で家族とキャンプする」「湖魚をもっと食べる」「毎日琵琶湖の水に感謝する」など、多様なコミットメントが提示されました。



最後に各グループの代表者が登壇し、グループ内での話し合いの様子と、各グループでまとめた「キーセンテンス」を発表しました。キーセンテンスは今後「びわ湖との約束」として取りまとめられ、行動指針として活用していくとともに、計画の見直しの際に活用していきたいと考えています。

マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言

「午後の部でテーマ「びわ湖とものさし」を担当して」



「琵琶湖の善し悪しをどのように測ればよいか」について話し合うテーブルの進行役を担当しました。結果、私たちの暮らしやそこにいる人に焦点をあて、多様な人たちの感じる琵琶湖に耳を傾けていく必要があるとの認識から、キーセンテンスは「人間の五感の数値化に挑戦！」となりました。科学的データだけでなく、人間の感覚を大事にした新たな「ものさし」を考えていくべきと思いを新たにしました。

（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター　佐藤祐一）

マザーレイクフォーラム　「つながりに気づき、つながりを築く」

「琵琶湖の保全再生に向けて」をテーマに オープンミーティングを開催しました！

マザーレイクフォーラム運営委員会

11 月に県内２箇所で琵琶湖保全再生計画に係るオープンミーティングを開催しました。今回は、その概要について、ご紹介します。

オープンミーティングの概要

琵琶湖を後代に継承すべき「国民的資産」として位置付けた「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が平成 27 年 9 月 28 日に公布・施行され、平成 28 年４月 21 日には国により「琵琶湖の保全及び再生に関する基本方針」が定められました。

これを受け、滋賀県では、住民や関係団体など多様な主体の皆さま方との幅広い意見交換を踏まえ、琵琶湖保全再生施策に関する計画を策定することとしています。

今回、その一環として「琵琶湖の保全再生に向けて」をテーマにオープンミーティングを開催し、参加いただいた皆さんと意見交換を行いました。

①大津会場

日　　時：平成 28 年 11 月 28 日（月）15:00～17:00

場　　所：滋賀県大津合同庁舎　7－Ｂ会議室

参加人数：34 名（3 グループに分かれて討議）

②彦根会場

日　　時：平成 28 年 11 月 29 日（火）17:00～19:00

場　　所：滋賀県立大学交流センター　研修室 5・6

参加人数：15 名（2 グループに分かれて討議）

内　容

（１）琵琶湖の現状と琵琶湖保全再生計画について（説明）

（２）グループ討議

（３）討議内容発表

大津会場での主な意見

大津会場では、NPO や企業、大学など、様々な分野の方々にご参加いただき、3 グループに分かれて討議しました。

日頃から琵琶湖をフィールドに活動されている方も多く参加されていたため、最初の自己紹介から話が盛り上がり、予定していた一人 30 秒では全く時間が足りませんで

した。さらに、琵琶湖保全再生計画等についての鋭い質問も相次ぎ、その回答だけでたくさんの時間を使ってしまいましたが、「水質優先で本当に良いのか。」「どうすればビワイチが地域振興につながるのか。」など、短い時間の中、白熱した議論が展開されました。

また、「県内では様々な取組が行われており、そういう取組が琵琶湖固有の財産であり価値である。」「エコツーリズムや世界農業遺産、環境教育といった未来に向けての記載もあり、素晴らしい。」などの意見もありました。

彦根会場での主な意見

彦根会場では、大学生や大学関係者等にご参加いただき、2 グループに分かれて討議しました。大津会場より人数が少なかったことと、事前に琵琶湖保全再生計画（素案）の勉強をされた方が多く参加されていたため、かなり深い議論となりました。

「琵琶湖が国民的資産って、本当にそうなのか。」「県内の人も琵琶湖の価値をどこまで理解しているのか。」など、こちらも白熱した議論がありました。

どちらのグループからも、「活かす取組」や「企業との連携」、「価値の発信」などについて、多くの意見がありました。

琵琶湖へのメッセージ、計画への提案

グループ討議のあと、「琵琶湖へのメッセージ」と「計画への提案」を書いていただきました。琵琶湖を愛する皆さんの「熱い想い」と「未来に向けた提案」は、知事にも届け、想いを共有していきます。

マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言

「オープンミーティングでの議論に参加して」

参加者の方と議論を交わす中で、皆さんの琵琶湖の保全再生に対する熱い気持ちと今回の法律・計画への関心の高さというものを改めて感じました。

グループ討議においては、「琵琶湖の活用」「企業との連携」「価値の発信」についての意見が多くありましたが、琵琶湖の価値については、今年度、県内約 3 千人を対象とした県政世論調査を行っています。 結果は、「水源としての価値」が 53.7%で最も高く、次いで「観光資源としての価値」が 12.2%、「古代湖としての価値」が 11.0%でした。

「琵琶湖は本当に国民的資産なの？」「琵琶湖の価値って水でしょ。」という意見もありましたが、『琵琶湖の価値は水源だけじゃない！』 このことを広く伝えていこうと心に誓いました。（滋賀県琵琶湖保全再生課　岡田裕行）

マザーレイクフォーラム　「つながりに気づき、つながりを築く」

決定！マザーレイクフォーラム賞！
～第１０回淡海の川づくりフォーラム～

マザーレイクフォーラム運営委員会

平成 29 年 2 月 4 日に開催された「第 10 回淡海の川づくりフォーラム」で、初出場にして見事“マザーレイクフォーラム賞”を受賞された「釣り人による清掃活動」さんから、活動紹介や当日の感想を寄稿していただきましたので、ここにご紹介します。

目的は「水辺での笑顔づくり」

「釣り人による清掃活動」とは、水辺が大好きな者が集い、水辺での「笑顔づくり」を行なう活動です。「ただのゴミ拾いでしょ？」と思われるかもしれませんが、朝から清掃活動をしていると、道ゆく人に「ありがとう!」と声を掛けていただけます。「ありがとう！」を怒りながら言う人はいません（笑）。笑顔で言ってもらえると、こちらも笑顔になります。そして、ゴミを拾い集め、水辺からゴミが無くなってくると、自然と笑顔になります。さらに、作業をやり終えて「お疲れ様！」と言い合えば、また笑顔になります。

…そんな笑顔づくりの活動を、2015 年 12 月から始めました。最初はたった２名でのスタートでしたが、今日(2017 年 2 月)までに計 8 回の“笑顔づくり”を行ない、その 8 回目は、「瀬田川リバプレ隊」や「琵琶湖河川レンジャー」の皆さんとの協働により、総勢 26 名で笑顔を作ることができました。

偏見を払拭して、心を通じあわせたい！

「釣り人による清掃活動」を行なうに至った背景には、一般的に「釣り人＝マナーが悪い」というイメージが少なからずある、ということがありました。特にバス釣り愛好家は、そのような目で見られる風潮があるのではないでしょうか。

そこで、釣り場周辺の住民の方々や、琵琶湖を訪れる人々に、我々が清掃活動に取り組む姿を実際に目にしてもらったり、地域の皆さんとの協働による活動へと発展することで、対話やコミュニケーションが生まれ、「相互理解」への第一歩になるのでは、と考えたのです。

「笑顔がつくれる行動」は、「笑顔が生まれる行動」とも言い換えることができます。笑顔が生まれる場所は、人が集まる出会いの場所でもあります。「夢中になれる琵琶湖・瀬田川にしたい」「風景や環境をよくしたい、維持したい、後世に残したい」者が集まる場所。立場は違えどその想いは一つ、通じ合うものだ、ということが、実際に活動してみて分かりました。我々の活動が、人と人をつなぐきっかけとなり、異文化同士の化学反応を起こし、そこから良いアイデアが生まれ、未来への可能性が広がっていく。

…そんな清掃活動を理想として、今後も継続させていきます。

「淡海の川づくりフォーラム」に参加して

今回の「淡海の川づくりフォーラム」への参加は、「発表」というより「挑戦」でした。未知の世界への冒険の扉が開く。まさに言葉通り、そのものでした。特段、発表に値するほどの特筆すべき成果があった訳でもありません。「釣り人」を代表して、ただただ、我々の気持ち・想いを滋賀の皆さんに伝えたい。我々にあるのはそれだけでした。完全アウェーの心境で、皆さんからお叱りを受ける覚悟で。

それが、思いも寄らないことに、心から温かく迎え入れていただいたのです。もう、ただ「感謝」しかありません。こんな言葉もいただきました。「びわ湖が好きでびわ湖と関わるすべての人にとって、滋賀・びわ湖は『ホームグラウンド』ですよ！決して『アウェー』じゃないので安心してください♪」

同志の「釣り人」の皆様！「大好きな水辺は自らの手で、水辺が大好きな方々と協働して守っていきましょう！」…これからの皆様一人一人の「釣り人の心得」に、この一文を付け加えていただければ光栄です。

マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言

「“マザーレイクフォーラム賞”の選考にあたって」

発表された津熊さんは大阪在住だけあって、まずもってトークがオモシロかった。会場に居合わせたみんなが彼らを大好きになりました。県外からはるばる通って清掃活動をして、道行く人と笑顔を交わす。その心意気に、我々滋賀県民もただ「感謝」しかありません。「県外からの釣り客はマナーが悪い」…私も心のどこかにあったかもしれないそんな偏見が、彼らと出会って吹き飛びました。８月の「びわコミ会議」でも発表していただく予定ですので、乞うご期待！　（暮らシフト研究所　藤田知丈）

マザーレイクフォーラム 「つながりに気づき、つながりを築く」

地域フォーラムの活動紹介

マザーレイクフォーラム運営委員会

マザーレイクフォーラムには、琵琶湖の現状や将来について話し合う**「びわコミ会議」**やインターネット上の情報発信・交流を行う**「プラットホーム」**のほか、地域ごと、分野ごとに交流・意見交換を行う場である**「地域・分野別フォーラム」**があります。現在、「マザーレイク 21 計画（第 1 期）」にある「河川流域単位での取り組み」を進めるために設置された**「流域協議会」**が、引き続き地域フォーラムとして活動をされています。本稿ではそのうち、湖東地域と湖南地域の活動についてご紹介します。

環境フォーラム湖東

宇曽川・犬上川・芹川の 3 流域で構成されている湖東地域で「湖東地域エコトピア推進委員会」を設置し、行動計画「湖東地域エコトピア推進計画」を策定するとともに、水環境の保全と回復、ごみの減量化、環境教育の推進など様々な環境保全実践活動に取り組んできました。さらにこの計画を実行していくため、平成 16 年 3 月に「環境フォーラム湖東」が設立されました。

環境フォーラム湖東では、現在、①いきもの調査、②シンポジウムの開催、③水環境調査、④えこサロンの開催、⑤広報啓発活動を実施しています。例えばいきもの調査では、これまでトンボやカタツムリ、ホタル、つばめなど身近ないきものを対象にして、子どもから大人まで楽しみながら自然を観察するとともに、調査結果データを分布マップにして情報提供を行っています。これらの活動を、地域住民が関係機関と連携を取りながら主体的に行っている点が特徴的な地域フォーラムであるといえます。活動についてより詳しく知りたい方は、環境フォーラム湖東の HP（http://www.f-koto.org/）をご覧ください。

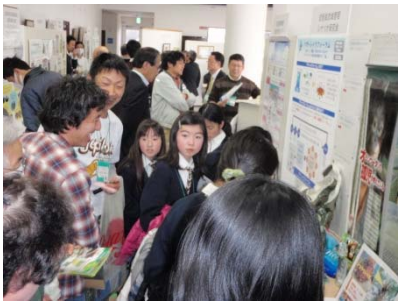
いきもの調査の様子

湖南流域環境保全協議会

「湖南流域環境保全協議会」は、湖南地区（野洲市、守山市、草津市、栗東市）における流域協議会として平成 13 年 8 月に発足しました。

現在の主な活動は、①「こなん水環境フォーラム」の開催、②身近な水環境の一斉

調査の２つです。前者のこなん水環境フォーラムは、地域における環境保全活動をもっと広く伝え、多くの人たちが環境保全に関心を持って行動に移していただけることを目的とした、湖南地域で生活、活動等を行う人たちの発表および交流の場です。住民、企業、行政が協働で開催しており、平成 21 年度より毎年１回、これまで計８回開催しています。旗揚げアンケートなどを用いた活動発表、ラブレターを用いたブース巡り、琵琶湖の漁師料理を囲んでの交流会など、積極的に参加、交流ができるプログラムとなっています。今後は、各流域で蓄積されてきた水やいきもの調査の結果を取りまとめ、情報提供していくことなどを考えています。活動についてより詳しく知りたい方は、湖南流域環境保全協議会の HP（http://www.pref.shiga.lg.jp/kusatsu-pbo/kankyoshinrin/kyougikai.html）をご覧ください。



こなん水環境フォーラムの様子（左より、旗揚げ、ブース巡り、交流会）

※本稿執筆にあたり、両団体には活動に関する資料等をご提供いただきました。ここに感謝申し上げます。

今年も開催！「第７回びわコミ会議」（8/26（土））

今年も琵琶湖とその流域に関わる人たちが一同に会し、思いや課題を共有して琵琶湖の将来のために話し合うイベント「びわコミ会議」を８月 26 日（土）10:00～16:30、コラボしが２１（大津市打出浜 2-1）で開催します。今年のテーマは「びわ湖を活かし、びわ湖と生きる」です。地域フォーラムを題材にした座談会も実施予定です。申込受付は６月上旬開始予定。詳細は HP（http://mlf.shiga.jp/biwacomi）をご確認下さい。

マザーレイクフォーラム運営委員会委員より一言
「SDGs とマザーレイクフォーラム」

2015 年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」。人間、地球及び繁栄のための行動計画として 17 の目標と 169 のターゲットが掲げられており、いま色んな国々、地域、企業などで SDGs のために何ができるかという検討が進められています。実はびわコミ会議でも毎年「びわ湖との約束」を公表していて、これはいわば琵琶湖版 SDGs。それぞれの約束を守るために各自に何ができるのか、びわコミ会議で一緒に考えてみませんか。新たなデザインを、今年のびわコミ会議で公表予定ですのでお楽しみに。（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター　佐藤祐一）